豊田市を取り巻く環境の整理（まとめ）

令和５年５月３１日
総合計画審議会資料②-1

【これまで】第8次総合計画（2017～2024）

豊田市の特徴

①世界的な**自動車産業の拠点**として発展してきた都市

②**豊かな自然、多様な歴史・文化**を持つ都市

③**多様で充実した担い手**を有する４０万人都市

豊田市を取り巻く環境

①超高齢社会の進展

②産業構造の大転換

③新型コロナによる「新たな日常」

④大規模自然災害・気候変動

⑤SDGs

⑥公共施設等の老朽化

⑦厳しさを増す財政状況

まちづくりの基本的な考え方

多様な「豊かさ」を生み出す社会へ
従来からの発想の転換
- 「つながり」重視へ
- 「あるものを生かす」発想へ
- 「かけ算」思考を
- 「多様な主体が楽しむ」へ

リニア中央新幹線開業を見据えた
広域でのポジショニング
- ものづくり中枢都市として名古屋圏の飛躍を推進
- 多様な資源やライフスタイルの選択肢の受皿になる

〔将来都市像〕つながる　つくる　暮らし楽しむまち・とよた

〔現在地〕
2023年

現状の評価

①市民の**「住みよさ満足度」や「定住意向」は継続的に上昇している**。

②様々な分野でプラットフォームの構築や官民連携による取組など、多様な**「つながり」の場が創出**されており、共働により**持続的な取組としていく**必要がある。

③**順調に都市の形成が進展**してきたが、**更にメリハリのある機能集積・居住誘導が必要**である。

2030　2040　2050…

ますます変化の激しい予測困難な時代の到来（VUCA※時代）

（※）変動性・不確実性・複雑性・曖昧性　の4英単語の頭文字をとった「未来の予測が難しい状況」を表す語

【社会潮流・豊田市の可能性とリスク】

「人」の視点

●中長期的な人口減少局面の進展、少子化・人生100年時代の進展

→少子化の加速により、**まちの活力維持が困難になるリスク**
→既存の社会基盤等のポテンシャルや、国内外から多様な人材が集まる産業構造を生かし、**中長期的に拠点性を維持できる可能性**

●コロナ禍を契機とした価値観・ライフスタイルの多様化の進展

→交通利便性や充実した基盤を生かした**コンパクトな都市の暮らし**や、都市に近いながらも自然豊かな環境を生かした**山村の暮らし**等、**多様な地域性**を生かして**様々なライフスタイルを受け止められる**可能性
→デジタルによるつながりの進展で、**地域社会の関係性が希薄**となるリスク

●「モノの豊かさ」から「心の豊かさ（≒ウェルビーイング）」志向の高まり

→本市ならでは充実した資源を生かし、将来を担う**子どもたちに自己実現ための様々な選択肢（環境）を持続的に提供できる**可能性
→歴史・文化・芸術等の様々な分野で、**市民一人ひとりのまちへの主体的な関わり**を引き出すことで、**地域への愛着・誇り**の形成につなげられる可能性

「人を支える基盤（まち）」の視点

●デジタルトランスフォーメーション（DX）の加速、生成AI等の技術革新

→広範な市域を**デジタルのつながりによって下支え**することで、**暮らしの質的な向上**を実現できる可能性
→技術革新が**社会経済に予測不可能な劇的な変革をもたらす**可能性

●産業構造の大転換、カーボンニュートラルの要請

→次世代モビリティ**研究開発拠点**としての機能を更に強化できる可能性
→**「100年に1度の大変革」**の動向により、産業構造が大きな影響を受けるリスク
→進出意向のある企業等を誘致することで、**産業の多角化**を実現できる可能性

●持続可能な都市経営の必要性

→気候変動により激甚化する**災害の発生**リスク
→**公共施設やインフラ老朽化**に伴う維持管理費増大による財政的リスク